

研究主幹総評および領域活動概要

I. 評価の概要

対象領域：戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）

e-ASIA 共同研究プログラム 環境分野

「自然と人間のシステムに関する気候変動の影響と解決策」領域

対象期間：2021 年 4 月～2024 年 3 月

II. 研究主幹（氏名、所属機関、役職）

舩岡 靖明 国立環境研究所 気候変動適応センター センター長

III. 採択課題

研究課題名	研究代表者名	所属機関	役職
アジアにおける気候変動と人間の健康：現在の影響、将来リスク、および緩和政策の健康便益	橋爪 真弘	東京大学 大学院医学系研究科	教授
先住民族社会とそれを取り巻く生態系の気候変動下でのレジリエンスに関する研究	ガルシア モリノス・ホルヘ	北海道大学 北極域研究センター	准教授
生物生産における伝統的方式と現代的方式の融合により気候・生態系変動への対応をめざす持続可能でレジリエントな未来	齊藤 修	地球環境戦略研究機関	上席研究員

IV. 研究主幹総評

本領域「超自然と人間のシステムに関する気候変動の影響と解決策」は、世界が直面している気候危機を中心としたさまざまな社会課題に対して、アジアの複数国で協働して取り組む適切なテーマであった。

具体的には 1) 食料生産と安全、2) 絶滅の危機にある生態系、3) 海洋および沿岸地域、4) 異常気象と自然災害、5) 人間の健康を対象とし、公募により 3 課題を選定した。社会的重要性及び緊急性が高い課題であるため、公募の競争率は非常に高いものであった。実施期間において、新型コロナ禍及びウクライナの戦争などの不可抗力的な事態に直面したものの、各課題はオンライン会合などを

活用して、計画した目標をおおよそ達成できたことは高く評価される。橋爪課題はアジア地域 14 カ国との共同研究ネットワークを構築するのみならず、多くの研究成果を論文として報告し、Lancet Planetary Health といったトップレベルの学術雑誌にも複数の論文が掲載されたことは、今後の研究展開の可能性も含めて非常に高く評価される。ガルシア課題は、COVID19 やウクライナ侵略といった国際的な問題発生の中で研究を推進するにあたり、様々な課題に直面したものの相当な努力がなされたと評価できる。今後、各地域での分析を進めると共にそれらの結果を総合し、研究の継続と発展を期待する。齋藤課題は、気候変動及び生態系変動の下、生物生産の伝統的方式と現代的 방식을融合させることで、持続可能かつレジリエントな複数の将来シナリオを参加国別に作成し、シナリオ毎の対応策を提案したことは高く評価できる。今後、開発されたモデルやシナリオ、ケーススタディを詳細に検証し、研究の継続と発展を期待する。

e-ASIA では成果のみならず国際的な研究交流も期待しているが、研究者ネットワークの強化やデータ管理プロトコルの構築、トレーニングセミナー等を通じて理論と実践を学ぶ研究手法の共有促進など、3 課題共に十分な成果を上げたと評価できる。

すべての課題において、相手国研究機関との協働関係を緊密に確立し、本領域終了後もその関係が継続もしくは発展できる可能性が大きく期待されている点は、e-ASIA 共同研究プログラムの意義とその重要性を裏付けるものである。

V. 領域活動概要

時期	活動
2020 年 1 月	公募開始
2020 年 5 月	公募締め切り
2020 年 12 月	採択課題決定
2021 年 4 月	日本側研究支援開始
2024 年 3 月	日本側研究支援終了